

2022.9.23

日本学術会議 公開シンポジウム  
「沿岸環境の変化と人間活動  
—10年後を見据えた課題と対応—」

# 沿岸域の持続可能な利用と保全 ～個人の価値観・地域の合意・社会の仕組み～

東海大学海洋学部

脇田 和美



# 本日の話題

1. 「海の恵み」に対する価値観は、海洋環境を保全するための貢献意欲にどのように影響するのか？

価値観と環境保全意欲との関係性を探る

2. 地域・海の将来像について地域の合意を形成する際に留意する点は何か？

瀬戸内海の望ましい将来像を例に

3. 海に対する個人の価値観をふまえ、地域・海の将来像に関する合意形成を促進するような社会の仕組みとは、どのようなものか？

まちづくり・計画づくりの観点から

# SDGs, 国連海洋科学の10年

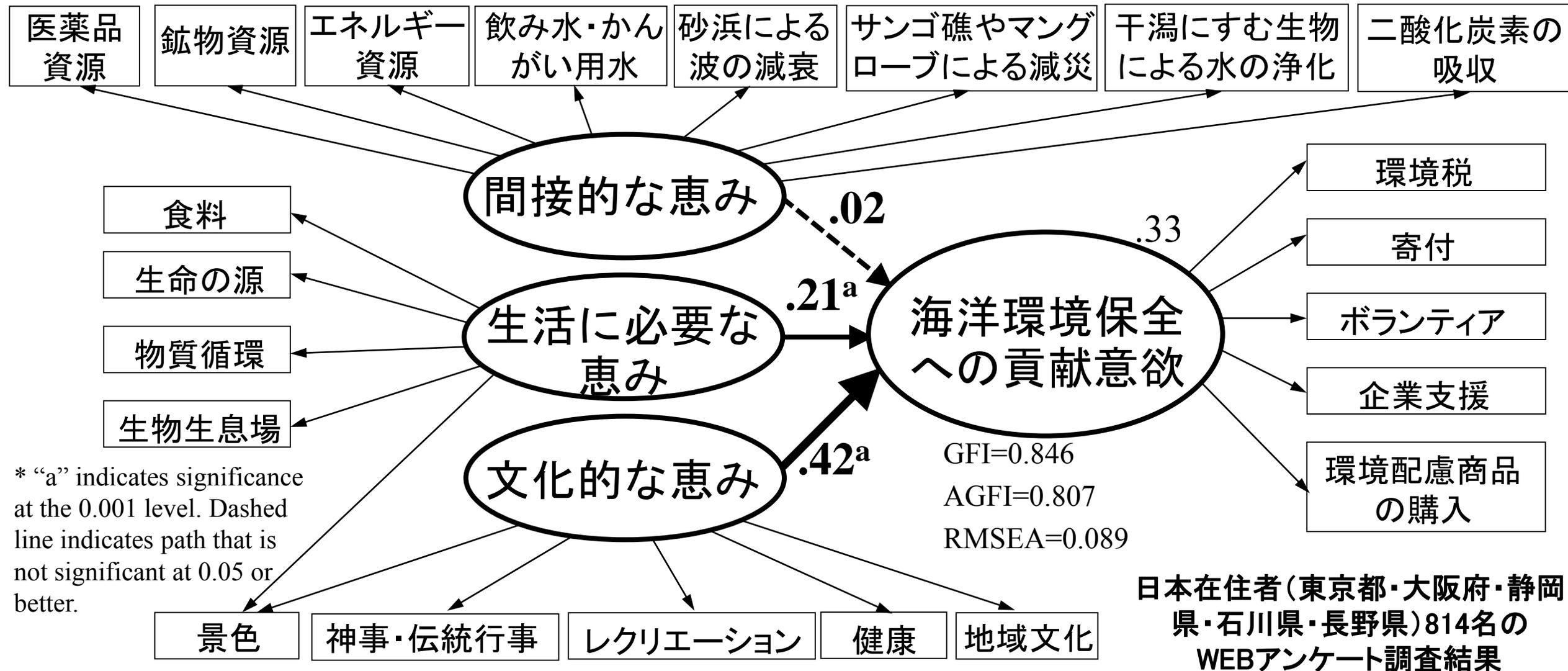
## 沿岸域の持続可能な利用と保全

### 社会の仕組み

#### 地域・海の将来像に関する地域の合意



# 1. 個人の価値観～海の恵みに対する価値観と環境保全意欲～



**海洋環境保全への貢献意欲は“文化的な恵み”により最も強く高められる。**

# 海の恵みの不可欠性

潜在変数	不可欠性に対する同意度 *					Total
	1	2	3	4	5	
間接的な恵み	24.4%	42.7%	26.8%	5.1%	1.0%	100%
生活に必要な恵み	39.6%	40.2%	17.6%	2.4%	0.3%	100%
文化的な恵み	11.9%	34.7%	36.8%	13.5%	3.1%	100%

\* 1: とてもそう思う, 2: まあそう思う, 3: どちらでもない, 4: あまりそう思わない, 5: まったくそう思わない

「不可欠性が高ければ高いほど、海洋環境保全への貢献意欲に与える影響も大きい」というわけではない。

# 2. 地域の合意 ～瀬戸内海の望ましい姿～

## WEBアンケート調査

自由連想法による回答のテキスト分析

上位50語の共起ネットワーク

兵庫県・香川県在住880名

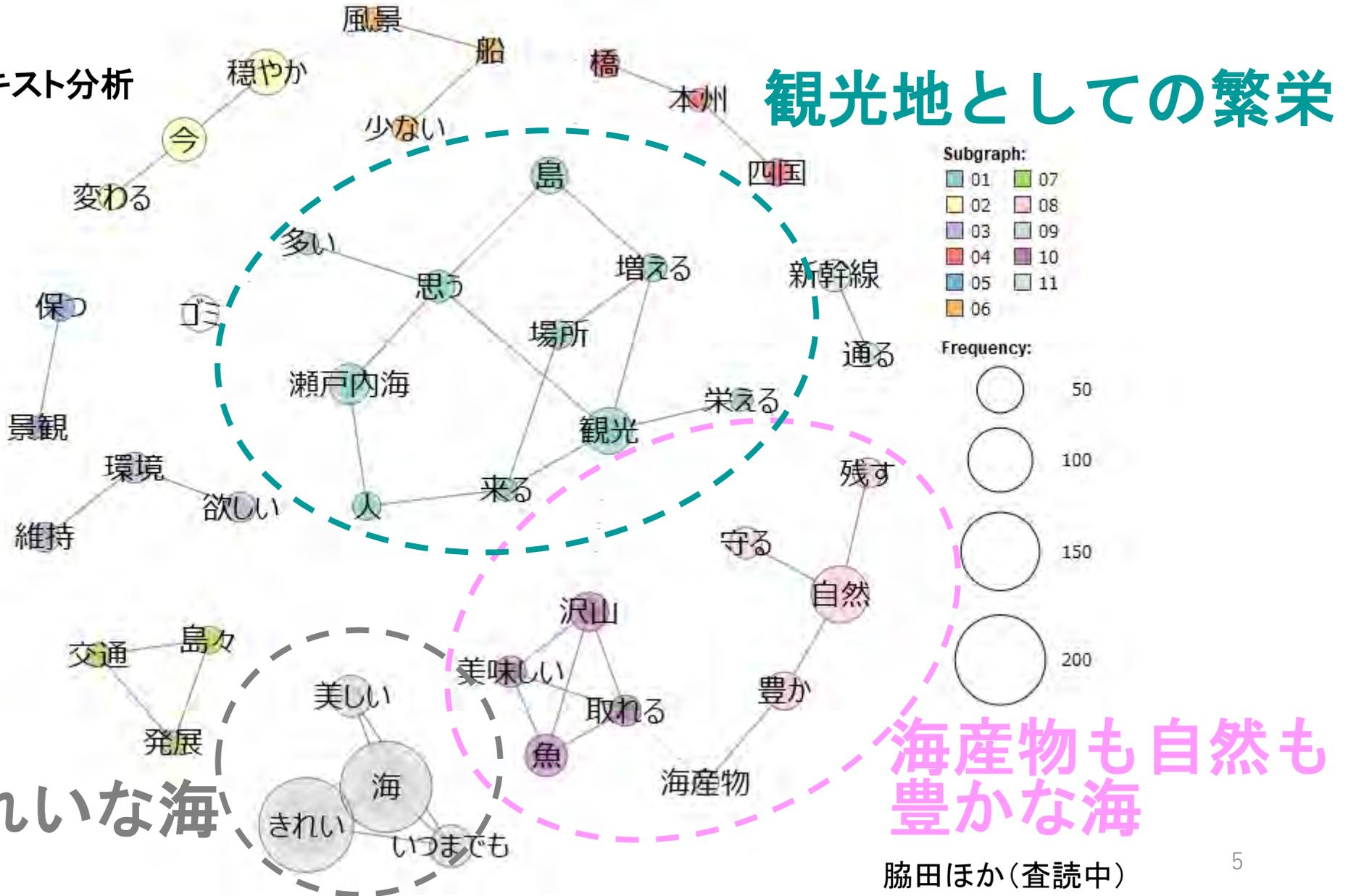
(男女・年代は均等割付)

2021.3.4～3.26実施

瀬戸内海環境保全特別措置法による対象区域

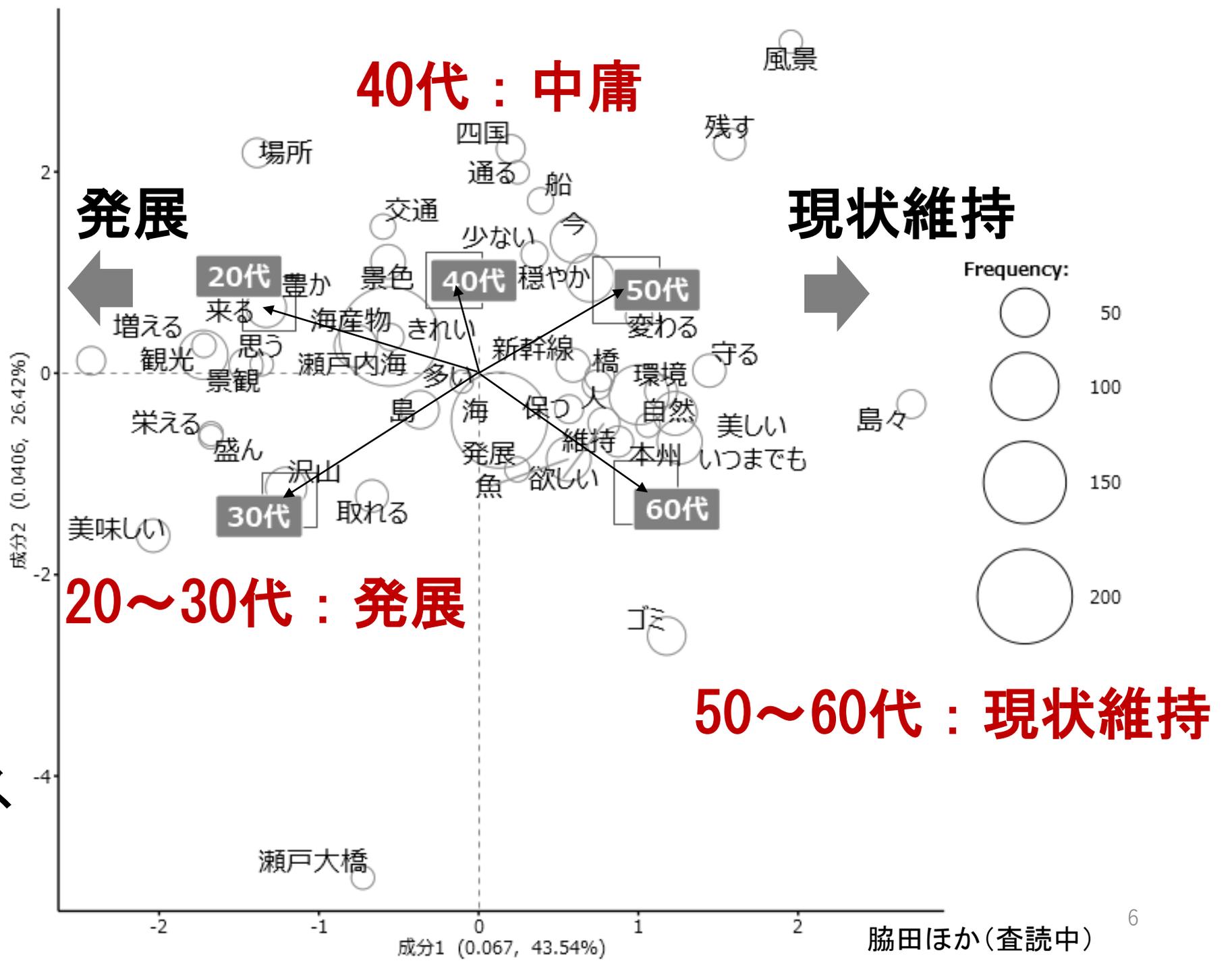


環境省「瀬戸内海の環境情報」ウェブサイトに加筆



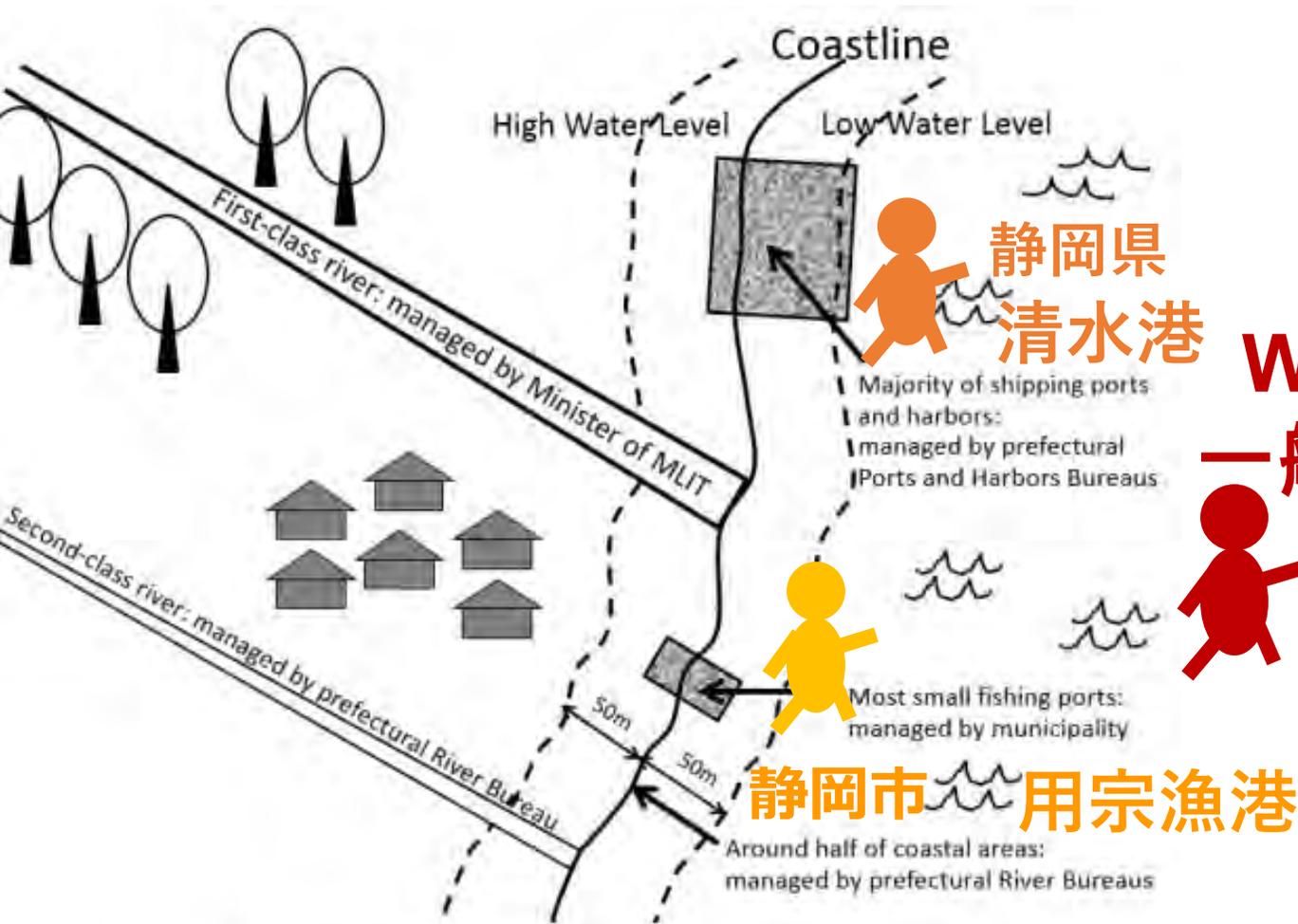
# 年代別

## 瀬戸内海の望ましい姿



上位50語の  
コレスポンデンス  
分析結果

# 3. 社会の仕組み ~まちづくりにおける海域の扱い~



## 海洋空間計画 (Marine Spatial Planning)

Who?  
一般海域

地方公共団体

海域の戦略的な保全と  
利用には、人間活動の  
空間的・時間的配分が  
不可欠

Figure 1-1 Responsibilities for coastal management in Japan

(Wakita and Yagi (2013) Evaluating Integrated Coastal Management planning policy in Japan: Why the Guideline 2000 has not been implemented. Ocean & Coastal Management 84: 97-106 をもとに加筆)

日本海洋政策学会・日本沿岸域学会共同提言  
「海洋・沿岸域の総合的管理の実現に向けたアピール  
~第4期海洋基本計画への政策提言~」2021年12月

# 今後に向けて

## 沿岸域の持続可能な利用と保全

### 社会の仕組み



### 地域・海の将来像に関する地域の合意

### 個人の価値観



市民, 漁業者,  
事業者, NGO,  
大学, 行政等

地域・海の将来像の議論には若者を含む幅広い世代の参画を得るよう留意することも重要



「文化的な海の恵み」を実感する機会や場の提供も重要

地方公共団体が海洋空間計画に取り組む可能性の検討

まちづくりの計画対象区域に「海域」を含める可能性の検討

一般海域の管理に関する国と地方公共団体の役割分担の検討